



校長室だより

校長 山崎 聡子

トウモロコシ皮むき体験活動

19日(水)に2年生がトウモロコシの皮むきを行いました。栄養士が事前の計画を立て、当日は朝早くから、農家の糟谷さんがたくさんのおとうもろこしを運んでくださいました。

糟谷さんは、茎の途中で大きく実ったトウモロコシをもぎ取らない物も持ってきてくださり、トウモロコシがどこにできるのかを実物を示して説明してくださいました。長い茎の途中でできるトウモロコシを初めて見た子供たちは、感嘆の声をあげていました。トウモロコシの皮むきをする子供たちの顔は真剣そのものでした。皮を何回かむくと、見慣れたトウモロコシの



つぶつぶが見えてきて子供たちは大喜びでした。皮を全部むき終わると、皮についた茎の部分を折って実だけにしていきます。硬くて折ることに戸惑っている子供たちもいましたが、すでに折ることができた子供たちが、手伝おうとする姿があちこちで見られました。折ることに困り感をもって子供たちはうれしかったことと思います。皮がむき終わり、実だけになったトウモロコシは全校のみんなが食べる物だから優しくかごに入れるようにとの先生の話



を受け止めて、みんなが丁寧にかごに入れている姿もすばらしかったと思います。また、皮むきを



早く終えた子供たちが、落ちていた皮やひげを自主的に拾い集めている姿もありました。その姿を先生が全体に価値づけ、全員での取組へとつなげていきました。使用した物や場所をもとに戻すことは、様々な活動の中で学んでいます。繰り返しの学びを通して子供たちの中に大切な視点が積み上がっていきます。

活動終了後に、2年生の先生から、全校分のトウモロコシをむくことができたことは、2年生全員で取り組んだからであることに触れながら、人数が少ない中で、全校分の給食を毎日作ってくださっている調理員さんの仕事に目を向けさせていました。また、自分たちが一生懸命皮むきしたトウモロコシを学校のみみんなに残さず食べてほしいという子供たちの思いを引き出し、毎日の給食を作ってくださいる調理員さんやトウモロコシを作ってくださいる糟谷さんも同じ気持ちであると話をしていました。給食に関わる多くの方々の存在を知り、感謝して給食をいただくことの大切さを子供たちは実感できたのではないかと思います。

子供たちが一生懸命活動したからこそ感じることができたことをもとに、自分を支えてくださっている周囲の方々の思いと重ね合わせて考えることができたことは、子供たちの心の豊かさにつながるものになったことと思います。活動を通して大きな学びにつながる貴重な時間となりました。